

機械器具 22 検眼用器具

一般医療機器 両眼視機能検査装置 (JMDN コード 37071000)

ディスタンス ランドット ステレオテスト

【禁忌・禁止】

- ・ 偏光メガネをサングラスとして使用しないこと。
[眼に障害の恐れがある]

【形状・構造及び原理等】

下記に外観図を示す。



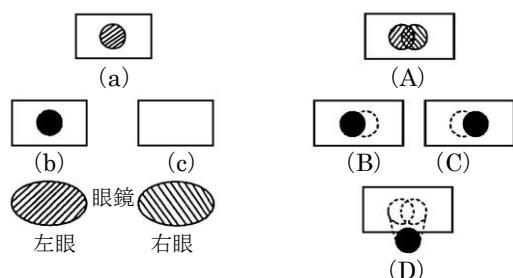
<構成>

本製品の基本構成は以下の通りである。

- ・ ステレオテスト
- ・ 偏光メガネ(標準型、子供用)
- ・ 見本板
- ・ 取扱説明書

<原理>

中心に 135° の偏光板の入った視標 (a) を見ると、同じ 135° の偏光板を用いた眼鏡の左眼は内円 (b) が見えるが、右眼は見えない (c)。さらに、視標 (A) のように偏光板を組み合わせると、左眼は視標の左側に円 (B) が、右眼は視標の右側に円 (C) が見える。



それを両眼で同時に見ると、両眼の焦点が手前に結ばれ、円 (D) が浮いて見える。視標 (A) の左右円のズレの大きなものは大きく、小さなものは小さく浮いて見える。また、(A) の内円を左右入れ替えると沈んで見える。

<仕様>

立体視差：400”、200”、100”、60”
検査距離：3 m

【使用目的又は効果】

遠見 (3 m) での、立体視機能を検査する。

【使用方法等】

1. 予備テスト

被検者に、丸、三角、四角、星、が描かれた見本板を見せて被検者がそれぞれの図形の形を答えられるか、または指示した図形を指し示すことが来ることを確認。

2. テスト

被検者に偏光メガネをかけさせ、各立体視差の視標を見せ、見本板上の同じ図形を指し示させるか、または視標の図形の形を答えさせる事により視標を正しく認識できるかを確認。

立体視差 400 秒の“400A”、“400B”の視標からテストを始め、それらの図形を正しく答えられたら、立体視差 200 秒の“200A”、“200B”の視標でテストを行い、それらが正答の場合、さらに“100A”、“100B”の視標でテストを行い、それらが正しく認識できたら、“60A”、“60B”の視標でテストをおこなう。

3. 判定

上記 1. 予備テストで正しく答えられたにもかかわらず、立体視差 400 秒の視標が正しく識別出来なかった場合、判定は 立体視力なし となる。

A,B いずれも認識できた視標の組の中でもっとも小さな立体視差が立体視力となる。

【使用上の注意】

<重要な基本的注意>

- (1) 本品の使用者は、医師、医師の指示を受けた人及び視能訓練士だけに限定すること。本器の使用は、如何なる場合も医師及び視能訓練士の指示に基づいて行うこと。
- (2) 検査距離は取扱説明書を参考に適切な距離(3m)を保つこと。

【保管方法及び有効期間等】

常温に保管すること。但し、40℃以上の高温、-10℃以下の低温、85%以上の湿度、及び直射日光は褪色の原因となることがあるので避ける。

【保守・点検に係る事項】

- (1) 検査面や偏光メガネのレンズには手を触れないこと。
- (2) よごれた場合は、柔らかい布で軽くはらうこと。洗浄用の液体や溶剤は決して使用しないこと。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者

ジャパン フォーカス株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷 4-37-18

TEL (03) 3815-2611

外国製造業者

Stereo Optical Company, Incorporated

アメリカ

緊急連絡先

ジャパンフォーカス株式会社 TEL (03) 3815-2611

株式会社 JFC セールスプラン TEL (03) 5684-8531

取扱説明書を必ずご参照ください。